

# ◆ 野外活動に行ってきました ◆

☆1日目☆

平成 27年8月3日(月)

8月3日(月)～4日(火)に、岡山県にある国立吉備青少年自然の家で野外活動を行いました。

事前学習において、この宿泊学習の目的は何か、活動を通してどのような力をつけていくのかということをお話ししました。宿泊学習のめあてを「ルールを守り、相手意識をし、楽しい野外活動にする。」とし、グループのリーダーを中心に活動を行いました。



1日目の活動は、キンボール、焼き板作り、野外炊事、キャンプファイヤーでした。野外炊事では、事前に役割分担をしていたこともあって、飯ごうを使ってご飯を炊いたり、薪を割って火起こしをしたり、自分の仕事にスムーズに取り組むことができました。また、他の仕事のお手伝いも積極的に行い、協力する姿もたくさん見られました。食べた後の片付けも、「翌日の点検で絶対合格する！」という気持ちで鍋などを洗っていました。取手などの細かいところまで一生懸命磨いていました。キャンプファイヤーでは、火のありがたさに感謝しながら、営火長の火についての話を聞きました。第2部では、1ヶ月ぐらい前から各グループで休憩時間などを使って一生懸命練習してきたクイズや問答ゲーム、マジックなどを行い、とても盛り上がりました。

☆2日目☆

平成 27年8月4日(火)



2日目は、カッター活動を行いました。各クラスに分かれてカッターに乗りました。始めは慣れてなくて、みんなの動きがなかなか揃わず、真っ直ぐに進むことさえ難しかったのですが、だんだん慣れてきて動きが揃ってくると、スピードがついてきて真っ直ぐに進むことができました。1組も2組も艇長の掛け声に対して「オーエス！」としっかり大きな声を出していました。1つの櫂を

2人で漕ぐのですが、この櫂がとても重くて自由が利きません。中には、手にマメをつくりながら頑張っている児童もいました。20人で気持ちを1つにして漕がないと上手く進みません。しかし、後半になるとみんなで声を掛け合って協力し、団結する姿が見られるようになり、カッターは勢いよく進み始めました。

1泊2日の野外活動を通して子ども達は、たくさんの活動を体験することができました。初めての宿泊活動ということもあり、子ども達には不安があったと思いますが、みんなで協力していくことの大切さを改めて感じた野外活動になったと思います。今回の野外活動で学んだことを、ここで終わりにするのではなく、6年生での研修旅行や学校生活、家庭での生活にも生かしていけるように頑張ってもらいたいと思います。

ぎんがの郷コラム

石本 一敏

世界で一番高いビルがあります。みなさんはそのビルのどこをまます見たいと思いますか。

大体の人がビルの一番上を見ると答えるのではないのでしょうか。当然です。物事においても、素晴らしいものや華やかなものは一番目立つところを見るものです。

ここで少し視点を変えてみましょう。世界で一番高いビルを支えているものは、世界で一番強い土台です。この基礎なくしては、この建造物を支えることはできないのです。言い換えると、素晴らしい芸術作品や一流選手のスーパープレーの裏には、血のにじむような努力や準備といった確固たる基礎があるのです。しかし、人々はその基礎部分には、なかなか目が向かないものなのです。

これらのことと同じように、私たちは、人の成長を結果だけをみて判断しがちです。例えば徒競走で1位だと褒められ、そうでないと褒められないといったようなことです。結果は大切です。しかし、その過程にも目を向けなければなりません。目には見えない部分こそ、人としての成長が隠れていることを忘れてはいけません。

我々大人は、日々の生活で、子ども達の隠れた頑張りを目をむけ、積極的に褒めていきたいものです。

ぎんがの郷タイムス第5号は10月下旬にお届けする予定です。